材料科学科(金属材料工学科)

# 金 剛 会 会 報

2009 年 3 月 25 日発行
金剛会会報編集委員会

〒259-1292
神奈川県平塚市北金目 1117
TEL　0463-58-1211(代表)　内線 4213
FAX　0463-50-2096

## ご卒業おめでとうございます

材料科学科主任教授　松下純一

ご卒業おめでとうございます。

ご承知のように、本学工学部材料科学科は、旧工学部の改組改変によって 2001 年 4 月に新しくできた学科ですが、前身の工学部金属材料工学科、さらに、その母体である工学部応用理学科の一専攻から数えますと、ほんとうに長い歴史をもつ伝統のある学科ということができると思います。皆さんは、最初の材料科学科入学者（一期生）が卒業されてから数えて、五期目となり、卒業生数も、2009 年 3 月 25 日の卒業式時点で 383 人となります。昨年 7 月 4 日には、ご来賓の方々をはじめ、多数の卒業生にお越しいただき、学科同窓会「金剛会」会長をはじめ役員の方々にもご協力を賜り、学校法人東海大学理事長・本学総長・学長の松前達郎教授にご参加をいただき、校友会館にて学科創設 50 周年記念の会を盛大に開催することができました。今は未定ではありますが、次回の節目の会にて、是非、皆さんにお会いできることを学科教職員一同、楽しみにしています。このたび、ご卒業されます皆さんにおかれましては、それぞれの夢あるいは目的に向かって、材料科学科で学んだこと、得たこと、感じ取ったことなど、すべてを活かしながら、力強く羽ばたいて行っていただきたいと思っています。皆さん、そして皆さんを支えてくださった方々のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、本会報の発行をはじめ、日ごろから学科同窓会の運営にご協力とご尽力をいただいております、杉本幸一会長をはじめ関係の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

# 門出に向けて

金剛会会長　杉本幸一

卒業生の皆様おめでとう御座います。小学校以来の長かった生徒・学生生活もこれで一区切りを迎えられた事になります。これから社会に出られる方あるいは更に進学される方と進路は異なるかと思いますが、今まで以上に自覚と責任が強く望まれる点において相違はありません。

材料科学科で学んだ 4 年間の成果をこれからの人生に生かせるか否かは、ひとえに自分自身にかかっています。社会に出て自分が学んだ専門知識が、そのまま生かせる事はむしろ稀かも知れません。しかし課題に対するアプローチの仕方、論理的考え方、プレゼンテーションのやり方、或いは恩師、友人はどのような場に於いても貴重な宝です。これからの長い人生、多いにその宝を活用していただきたいと思います。

卒業生の皆様は金剛会の会員になられた事にもなります。材料科学科は昨年 50 周年を迎えましたが、金剛会も 2 年後に 50 周年を迎えることになります。会員は既にリタイアされた方、現役の方を含め 4,000 名を超え、全国各地で活躍されています。新会員の皆様も東海大学材料科学科を卒業された事、金剛会会員である事に誇りを持ち、これからの人生多いにエンジョイし、充実した日々を送られる事を切に望みます。

(金属工学専攻　1963 年度卒)

# 金剛会役員改選のお知らせ

2008 年 8 月 27 日に校友会館に於いて臨時役員会(幹事会)を開催し、9 月 1 日付けで新体制が発足致しました。役員一同力を合わせ更なる「金剛会」の発展に取り組む所存で御座います。皆様のご協力を引き続きお願い申し上げます。飛田前会長には 2004 年から 4 年間の長期に亘ってご尽力いただき深く感謝申し上げます。

| | |
|---|---|
| 会長 | 杉本幸一（1963 年度卒） |
| 副会長 | 高橋功夫（1963 年度卒） |
| 副会長 | 木村士郎（1970 年度卒） |
| 事務局長 | 山岸宣行（1965 年度卒） |

## 金属材料工学科(現材料科学科) 50 周年記念祝賀会を開催

2008 年 7 月 4 日霞ヶ関の東海大学校友会館に於いて、金属材料工学科(現材料科学科)創設 50 周年の記念祝賀会が 300 余名の出席を得て盛大に開催されました。当日は松前総長、高野学長代行、中村東海大学同窓会会長を始め多数の大学関係者、来賓にご出席いただき、金剛会からも 127 名の OB・OG 会員の参加がありました。祝賀会は「建学歌」斉　唱に始まり、総長の祝辞、来賓の祝辞、乾杯に続き約 2 時間懇親会が行われました。久し振りとなる恩師、同級生と再会もあり時が経つのを忘れるひと時でした。飛田金剛会会長の挨拶でお開きとなりましたが、お互い今後の健康と活躍を誓った一夜でした。当日の模様は材料科学科のホームページにも掲載されていますのでご覧下さい。

なお、金剛会にも多数の方からご寄付をいただきました。誌面を借りてお礼申し上げます。

中村東海大学同窓会会長

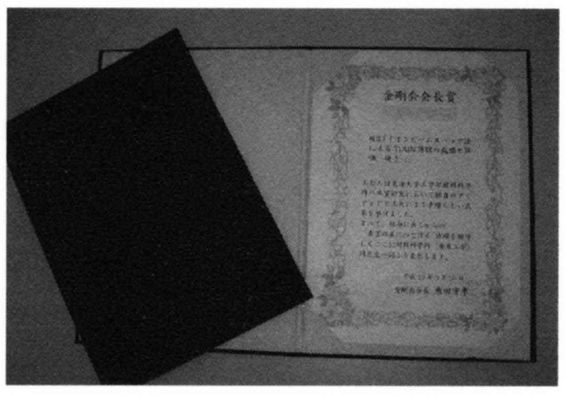
### ご寄付いただいた方(敬称略)

猪俣峰雄,清水英男,中西信義,飛田守孝,葛原栄三郎,藤澤啓一,帖地昭義,光延禎之,
室谷信壽,荒崎勝美,松尾龍幸,杉本幸一,瀬戸　元,中村　正,高橋功夫,山岸宣行,
瀬水澄夫,丸山尊彦,佐々木伸行,有田秀明,戸川　透,三木幸夫,山本　哲,都築美好,
安川雅晃,飯部光一,沼田稔穂,舟橋　浩,星野　薫,高橋　進,上田優吉,水村　薫,
中田　潔,相原正公, 田中正郎,井出準二,木村士郎,市橋正機,諸星芳和,毛塚良隆,
鈴木信介,高橋　理, 金子　理,千邑良伸,深田晴久,北　裕一郎,伊藤健郎,山口　峻

以上 48 名

## 2008 年度「金剛会長賞」(優秀卒業論文賞)

毎年、優秀な卒業論文に対して「金剛会長賞」を授与してきました。卒業式当日(3 月 25 日)に発表し表彰を行います。・最上翔太・金子朋広・加藤孝浩・永井威臣・渋谷英信・斉藤尚輝・中込貴之・高橋明日香



# 金剛会会長を退いて

飛田守孝

学科創設５０周年の行事を終え、組織の衣替えをした金剛会のもとで同窓会５０周年を迎える心構えを抱きながら、会長を退いて感じることに一言触れてみたい。

金属工学専攻一期生６０名が入学した１９５８（昭和３３）年は、国家予算が１兆円を超えたところであった。去年、国の一般会計が８０兆円を超えるように、同窓生数４０００人を超える５０年間に蓄積された卒業生の知的財産をまとめ、引き出すことの一端を同窓会が担っているべきと自覚すると、金剛会の力は微々たるものになっていたと会長就任当時（H16 年）に感じたものです。

時が経つにつれ、山岸副会長（現、事務局長）から SAS の運営の一端を聞くことになり、中小企業の“もの造り”に対する熱意と東海大学への期待の大なる事を知るにつれ、金剛会が学科と企業の仲立ちに寄与しながら、同窓会の存在意義を高められるのではないかと思うようになったことです。SAS と金剛会の企画力を豊かにするために、学科はもちろん大学とも協働して企業の若手・学生のための実用講座を開設するなどが考えられます。これから退職する同窓生が増えて、知的財産を活用し易い状況が生まれて来るとき、金剛会会員が自分たちの財産の掘り起こしに手をつけ、貴重なデータを入手する作業を関東およびその周辺から、卒業年度別“小同窓会”や金剛会ＨＰを通じて開始しては如何なものか。金融危機の真っ只中、厳しいものがありますが、SAS と金剛会の活動の相乗効果から何が提供できるか、支えあって展望を開きたいものです。

金剛会のこの４～５年の組織内の活動は在校生に学科同窓である会金剛会の存在を肌に感じてもらうことで、それなりにかなりの成果は出てきていると思っております。しかし、金剛会の運営に携わってつくづく感じますのは、組織をこえたところで人との繋がりを強めるまでには至りませんでした。学科の入学者数定員割れの心配が訴えられていたときに、何一つ行動できないことを痛感しましたが、OB 間のコミュニケーション網が創りあげられていたならば、金剛会の活躍の状況は大いに変わっていたと思われます。情報連絡網を金剛会創立５０周年を目指して創り上げたいものです。各県にキーマンを複数名おいて精力的な調査を始める必要があるのではないでしょうか。

# 新役員の抱負

会長　杉本幸一

現役を退いた身でありますが、最後のひと踏ん張りと思い会長を引き受けました。皆様のご協力を得ながら次の課題の達成を目指して努力致します。

- 教職員･現役学生･卒業生の一体感情勢
- 現役学生への支援
- 財政基盤の確立

副会長　高橋功夫

昭和39年春、３期目の卒業生としてIHI（旧、石川島播磨重工業）へ入社し、以来、研究所で鉄鋼材料の開発・研究に従事し、定年前約10年は関連会社のIHI検査計測（旧、石川島検査計測）で、各種材料の試験・分析、及び部品や構造物の計測に携わりました。現在もOBとして試験・分析の技術面での手伝いを行っています。

金剛会につきましては、その存在を知っている程度でしたが、昨年の学科創立50周年への参加を機に、金剛会の現状や抱える諸問題を聞きまして、微力ですがお役に立てればと、副会長を引き受けました。

学科が50周年を迎えたことは、諸先生方や職員の方々の努力の賜であることは勿論ですが、卒業生の方々が広い分野で活躍されていることも大きな要因であったと思われます。金剛会の活動としては、教職員及び学生の方々と卒業生の皆様との仲介が重要であり、今後の東海大学・材料科学科の発展につながるものと考えます。

金剛会の主役は卒業生の皆様でありますから、皆様のお役に立てるよう、今後努力して行きたいと思っています。よろしくお願い致します。

副会長　木村士郎

昭和46年に卒業して電子顕微鏡の開発製造を生業としている日本電子（株）に入社しました。最初の任務は顕微鏡の組立調整,客先への納入及びﾒﾝﾃﾅﾝｽでした。

その後金属材料出身ということで電子顕微鏡,X線回折装置等を使用して各種材料の表面観察や構造解析を実施する部門に配属されました。この経験がその後の社会人としての進路を決定いたしました。

近年学部の名称も材料科学科と変更され講義内容も多岐に及んでいると聞いています。材料科学はどんな分野の基礎に位置付けられる重要な学問と確信しております。ますますの発展を目指し共に歩んで行きたいと思います。

事務局長　山岸宣行

２００４年から飛田前会長の元、副会長を勤めさせて頂き、金剛会の状況を把握することはできましたが、同時に、その難しさをしみじみと知らされた気がしております.

金剛会本来の目的である“会員相互の親睦の向上”と“材料科学科（金属工学）の発展”を図ることに微力ではありますが、尽力致したいと考えておりますので、どうか皆さんのご協力をお願い致します。

## 2008年度卒業生の進路

材料科学科より２００９年３月に５８名、９月に４名の方が卒業されます．大学院修士課程を修了される方は、３月に３１名、９月に２名、合せて、進路を紹介します。

**材料科学科**

・　２００９年３月卒業　全５８名
　　就職希望：４８名　４７名決定
　　進学希望：１０名
・　２００９年９月卒業　全４名
　　（予定）就職希望：４名

**大学院修士課程**

・　２００９年３月修了　全３１名
　　就職希望：３１名　全員決定
・　２００９年９月修了　全２名
　　就職希望：２名

本年は例年に比較し、大学院への進学者が少ないのが特徴です。卒業生の約60%が製造業へ進まれます。
卒業生のますますのご活躍を期待致します。

## ～金剛会会費納入のお願い～

本年も62名の新入会員を迎えることとなり、大変おめでたい事と喜んでいます。新入会員の方には金剛会費納入をお願いしましたが、従来からの会員の方からは長い間会費をいただく事がありませんでした。今後の金剛会活動を活発にするための運営資金は皆様からの会費に依存するのみです。以下の通り皆様からの会費納入を是非お願い致します。

振込先　横浜銀行東海大学駅前支店(663) 普通預金口座　0315664
終身会費　10,000円　(1口　2,000円の分納も可とします)
振込みに際し、氏名と卒業年度を必ずご記入下さい。

## ～同級会、同窓会計画の方へ～

卒業生も既に4,000名となり全国各地でご活躍の事と思います。金剛会の同期会あるいは同窓会を開催される計画がありましたら、金剛会事務局までご一報下さい。ささやかですが、乾杯用のお酒代を差し入れたいと思います。会終了後、写真を添えて様子をお知らせ下さい。次回の金剛会会報で紹介させていただきます。

## 2008年度活動報告

1．　学科創設５０周年記念行事関連
金剛会歴代会長の調査、祝賀会への出席要請、その他

2．　通常活動
- 役員改選（９月１日付け）
- ホームカミングデー（ＨＣＤ）への参加と金剛会総会の開催（１１月３日）
- 卒研発表会出席（２月３日）高橋副会長、光延さん（２期生）
- 修士論文発表会出席（２月１３，１４日）杉本会長、高橋副会長、星野さん（７期生）、井出さん（１０期生）
- 第３回優秀卒業研究の表彰と卒業生への記念品贈呈
- 金剛会会報の発行

## ２００９年度活動計画

- 新入生歓迎会への参加
- 連絡網の整備と各期同級会、同窓会への支援
- ホームページの有効活用
- ＨＣＤ支援（会員の参加要請）と総会の開催
- 卒研、修士論文発表会へのＯＢ参加
- 第４回金剛会会長賞授与
- 卒業生への記念品贈呈
- 会報発行
- 会費徴収或いは活動費捻出の検討
- 金剛会創立５０周年（２０１１年）行事開催の検討

## 金剛会ホームページ開設のお知らせ

今般、材料科学科のご協力を得て、材料科学科のホームページ内に金剛会のホームページも併設する事になりました。会員の皆様の動向、相互の連絡、金剛会からのお知らせ等にご活用下さい。ホームページ運営に当たり皆様からもどしどしご意見をお寄せ下さい。皆様のご意見を取り入れながら今後内容を充実させていく所存です。ご協力の程、よろしくお願い致します。

閲覧は「東海大学材料科学科」で検索して下さい。

## 編集後記

昨年、学科創設５０周年を迎えましたが、金剛会も３年後の２０１１年に、５０年の節目を迎えることになります. 金剛会という名の由来を知る人も少ないと思います. ５０年、正に今昔の感があります. だからこそ、今、学科同窓会の原点に立ち返って、地道な活動に徹し、皆さんが気楽に利用できる親睦の場作りを目指したいと思います.

代々木と湘南の２つのキャンパスで、多くの先生方から教育を受けた会員(卒業生)数が、４０００名を越えるまでになりました. これだけの組織をまとめていくことは大変なことですが、役員一同、**会員同士の親睦**と**学科の繁栄**を肝に念じて、活動に努めますので、学科教職員の方々、会員および学生の皆さんの絶大なご支援をお願い致します.